

「予想講座（予想問題編）テキスト p50」（2021/12/4 開催）のおまけ問題
～IgA 腎症&_Schönlein- Henoch-(シェーンライン-ヘノッホ)紫斑病<IgA 血管炎>～

テコム看護
講師
中尾裕貴

次の文を読み1~3の問いに答えよ。[105]

Aさん(34歳、男性)は、運送会社で配達を担当している。6か月前の職場の健康診断で、血圧142/90mmHgと尿蛋白2+、尿潜血2+を指摘されたが放置していた。1週前、感冒様症状の後に紅茶色の尿がみられたため内科を受診した。血清IgAが高値でIgA腎症が疑われ入院した。

[1] 確定診断のために必要な検査はどれか。

- 1.腎生検
- 2.尿細胞診
- 3.腎血管造影
- 4.腹部超音波検査
- 5.腎シンチグラフィ

[2] Aさんは IgA腎症と診断され、塩分1日6gの減塩食が開始された入院前は塩辛いものが好物で外食が多かったAさんは「味が薄くて食べた気がしない、退院後も続けられるかな」と話している。

このときの対応で最も適切なのはどれか。

- 1.「つらいですが慣れてきます」
- 2.「最初に甘いものを食べてください」
- 3.「各食事で均等に塩分を摂取しましょう」
- 4.「酸味や香味を利用するとよいでしょう」
- 5.「市販のレトルト食品は塩分が少ないので活用するとよいです」

[3] Aさんは退院後、仕事が忙しくなり一度も受診をせずに2年が経過した2か月前から疲れやすくなったが、仕事のせいだと思い放置していた。1週前から息切れ、食欲不振および浮腫があり、昨日から眠気、悪心および嘔吐が出現したため外来を受診した。体温36.5℃、脈拍98/分、血圧238/112mmHgであった。血液検査データは、尿素窒素100mg/dL、クレアチニン12.0mg/dL、Hb 7.1g/dL、胸部エックス線写真で心拡大と肺うっ血とが認められ入院した。直ちに行われるのはどれか。2つ選べ。

- 1.輸血
- 2.血液透析
- 3.利尿薬の内服
- 4.胸腔ドレナージ
- 5.降圧薬の点滴静脈内注射

(解答)～IgA 腎症～

- [1] 1 (メサンギウム領域の増殖性変化、IgA 沈着などを確認する)
- [2] 4 (減塩は必須なので、匂いなどで対応する)
- [3] 2、5 : 尿毒症の症状があるので、透析の適応である。

次の文を読み1~3の問いに答えよ。[107]

A君(13歳、男子)、2週間前から下腿の紫斑、腹痛、膝関節の疼痛が出現し、近くのクリニックを受診した。血尿および蛋白尿も認められたため、病院を紹介され受診した。既往歴および家族歴に特記すべきことはない。

身体所見：体温36.7℃、血圧110/66mmHg、意識清明。腹痛、浮腫なし。両膝関節の軽度の疼痛があるが、腫脹および発赤なし、両下腿に紫斑が散在している。

検査所見：

-血液所見：赤血球470万/ μ L、白血球5,600/ μ L、血小板21万/ μ L。プロトロンビン活性<PT活性>105%(基準値80~120%)、活性化部分トロンボプラスチン時間<APTT>32.0秒(基準対照31.2秒)。クレアチニン0.56mg/dL、アルブミン3.7g/dL、CRP 0.1 mg/dL。補体価(CH50)41IU/mL(基準30~45IU/mL)、抗核抗体陰性。

-尿所見：蛋白3+、潜血2+、赤血球50~99/1視野。

[1] A君の状態から最も考えられる疾患はどれか。

- 1.川崎病
- 2.血友病A
- 3.急性リンパ性白血病
- 4.全身性エリテマトーデス<SLE>
- 5.Henoch-Schönlein(ヘノッホ・シェーンライン)紫斑病<IgA血管炎>

[2]その後6か月間、A君は外来で経過観察となった。関節症状および紫斑は自然に消失したが、尿の異常と低蛋白血症は変わらず、その他の所見も変化がなかった。

A君の尿の異常の確定診断をするために最も重要な検査はどれか。

- 1.腎生検
- 2.咽頭培養
- 3.腹部MRI
- 4.クレアチンクリアランスの測定

[3]検査の結果、A君は2年間のステロイド治療が必要と判断された。1か月後に外来受診の予定である。看護師からA君に対して行う生活指導で適切なものはどれか。

- 1.「水分を積極的に摂取してください」
- 2.「紫斑が出現したら記録してください」
- 3.「蛋白質を制限した食事を摂取してください」
- 4.「日光をなるべく浴びないようにしてください」

(解答)~Henoch-Schönlein(ヘノッホ・シェーンライン)紫斑病<IgA 血管炎>~

[1]5.(紫斑、腹痛、関節痛、腎障害より)

[2]1.(腎障害の確定診断は腎生検が必要。)

[3]2.(1.&3.慢性の腎障害に対して、ステロイド内服している。腎障害より水分の積極的な摂取は控える。また、小児では成長に影響することがあるので、蛋白制限は行わない。2.紫斑の再発はIgA血管炎の再燃の可能性があるため、記録&速やかな受診を指導する。4.日光を避けるのはSLE)